

最上川学

－現地体験教育プログラムの紹介－

山形を滔々と流れる最上川。
その母なる河の流域には美しい農山漁村の暮らしの営みがあります。
流域の自然と文化に根差し受け継がれた伝統の知恵と技を
地域の人々とともに革新的に受け継ぎ、未来に向けていかしていく。
それが最上川学教育プロジェクトです。

NPO法人里の自然文化共育研究所では、大学コンソーシアムやまがたと協働して最上川の体験学習プログラムを作成しました。

2010年3月

最上川流域と庄内浜の自然と漁文化を愛する市民団体連絡会
(事務局：NPO法人里の自然文化共育研究所)



関連情報をホームページで公開中

<http://mogamigawa-gaku.net/>

○最上川学の現地体験プログラムとは

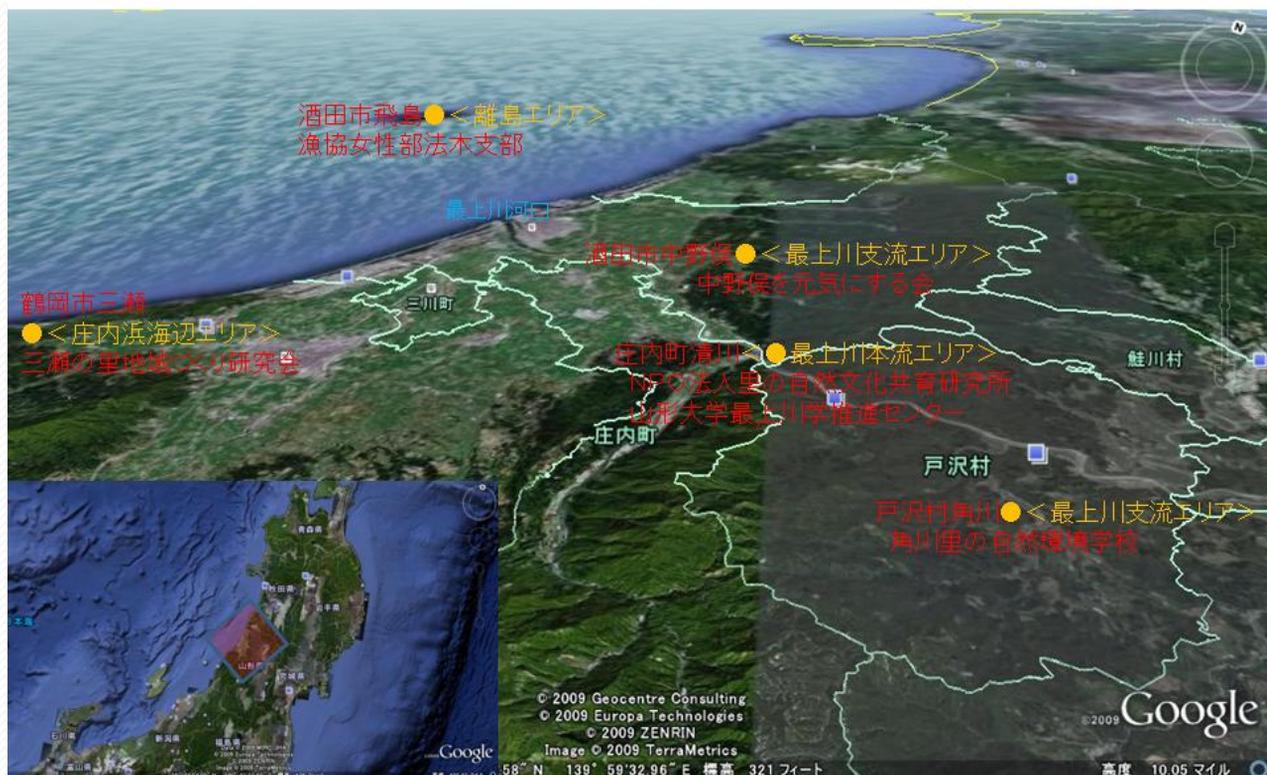
平成21年度の日本財団助成事業「みちのく最上川！川と海のつながり再生に向けた伝統漁文化の保全伝承プロジェクト」において、山形大学を中心とする大学コンソーシアムやまがたの最上川学教育プロジェクトとコラボレーションして作成された、大学生を中心とする次世代に最上川を受け継ぐための現地体験学習プログラムです。

流域のNPO等の市民団体が連携しながら、学生たちの現地体験学習の受け入れプログラムを提供しています。

また、活動に合わせて流域地域の保全伝承活動を相乗的に活性化しています。本プログラムは22年度山形大学の基盤教育科目の4科目8単位に反映されています。

「みちのく最上川！川と海のつながり再生に向けた伝統漁文化の保全伝承プロジェクト」

最上川流域と庄内浜の自然と漁文化を愛する市民団体連絡会 関係団体位置図



○ 最上川の匠たちに聞く I・II

現地(最上川学推進センター)と県内各大学キャンパスを最新鋭のテレビ会議システムによって結んで行われるリレー講義です。川漁師、海漁師、またぎ(山の猟師)、農家、林業家等をお招きして現場の生の声から最上川流域に生きることの意義と価値について理解を深めていきます。

I・川海編 プログラム

- ・最上川の自然
 - ・治水政策
 - ・川漁文化～漁法と技術～
 - ・川漁文化～食文化～
 - ・川の信仰と歴史
 - ・最上川の芸術
 - ・産業～舟運の歴史～
 - ・産業～観光～
 - ・庄内浜の漁文化～漁法と技術～
 - ・庄内浜の漁文化～食文化～
 - ・庄内浜の信仰と歴史
 - ・最上川・庄内浜の環境保全の試み
 - ・最上川を基盤とした地域づくりと今後
- ※一部予定変更する場合があります。

II・森里編 プログラム

- ・森の自然 I～里山の自然～
 - ・森の自然 II～最上峡の原生林～
 - ・森の文化～またぎと暮らし～
 - ・森の文化～食文化～
 - ・里の信仰と自然神
 - ・里の民具と工芸品
 - ・里の産業 I～農業・米・畑～
 - ・里の産業 II～山菜その他～
 - ・里の産業 III～温泉と観光～
 - ・里の暮らしと年中行事
 - ・里のコミュニティと相互扶助
 - ・最上川流域の里地里山環境保全の試み
 - ・最上川流域を里地里山地域づくりと今後
- ※予定一部変更する場合があります。

○ 最上川の匠たちに出会う I・II

最上川流域の美しい農山漁村。泊2日×2回の行程でフィールドワークを行います。集落に泊まり込んで、またぎ、農家、漁師など多様な地元住民とともに、調査と地域の元気を引き出す実験プログラムを行います。四季折々の山形の大自然を舞台にして流域の暮らしと文化を思う存分体験します。

I・春夏編 プログラム

4月下旬 事前指導

5月～8月 フィールドワーク
(下記のうちいずれか一つを選択。)

- ・5月上旬 庄内町清川:春の川漁文化
- ・ 下旬 酒田市中野俣:初夏の川と農業文化
- ・6月上旬 舟形町長沢:初夏の小国
- ・ 下旬 鶴岡市三瀬:庄内浜の自然と文化
- ・7月上旬 酒田市飛島:離島の自然と文化
- ・ 下旬 鶴岡市松ヶ岡:庄内の開墾と歴史

8月上旬 まとめとプレゼンテーション

II・秋冬編 プログラム

10月上旬 事前指導

10月～1月 フィールドワーク
(下記のうちいずれか一つを選択)

- ・10月下旬 庄内町清川:秋の川漁文化
- ・11月上旬 金山町田茂沢:里の収穫祭と農業文化
- ・ 下旬 最上町満沢:里の馬文化
- ・12月上旬 鶴岡市関川:里の工芸品
- ・ 下旬 酒田市中野俣:里の年中行事
- ・1月上旬 里山の冬仕事

下旬 まとめとプレゼンテーション

○ 学生活動の紹介

2009年6月に発足。当初は2010年度の単位互換科目設定に向け、最上川学の試行プログラムを行うために結成されました。

里地里山の自然や文化(里山・食など)、知恵や技術(ものづくり・農業)を学びながら、地元の方々と共に地域の財産を革新的に受け継ぎ、現代に生かしていくことで地域の未来に役立てていこうとしています。主に、最上川流域の農山漁村を主要フィールドにして取り組みを進めています。

現在は、さらに発展して地域づくりのための実験プログラムを行うことで、将来の学生たちの活動・仕事づくりの場を農山漁村に作りだす試みにもチャレンジしています。2010年には中心メンバーで「NPO法人里づくり山形学生根っこわーく」が誕生。山形の地域に根差した暮らしと仕事を生み出す「みちのく山形生業形成事業」に取り組んでいます。

・メンバー構成

代表 佐藤美波(山形大学地域教育文化学部2年)

副代表 大内ともみ(山形大学地域教育文化学部2年)

上田美沙紀(山形大学農学部2年)

内田大樹(山形大学農学部2年)

他、東北公益文科大学、東北芸術工科大学やその他の大学生を含め25名ほどのメンバーで活動しています。



2009年企画「最上川芭蕉の下った道をカヌーで訪ねる」にて。

問い合わせやメンバー参加希望は下記まで

山形大学大学連携推進室 023-628-4972 (出川)

最上川学推進センター 0234-57-2177 (石川・門脇)

○ 最上川学推進センター

最上川流域の地域の実践活動と連携していくための研究・教育拠点として2009年6月に開設されました。最上川舟運の要衝であった最上川河畔の庄内町清川にある旧清川小学校校舎を利用しています。研究者や学生はもとより、地域住民の研究や学習、各種イベント、情報交換・意見交換の場として活用されています。

・運営体制:大学コンソーシアムやまがた(契約代表校 山形大学)

NPO法人里の自然文化共育研究所

庄内町(立谷沢川流域振興プロジェクト協議会)

・設置備品等

テレビ会議システム×1

カヌー(調査船) 3人乗り×2

2人乗り×1

1人乗り×1

木造動力川舟 ×1

クレーン付き林内作業車 ×1

9人乗り乗用車 ×1

チェーンソー ×3



最上川学推進センター全景

その他、ナタ・のこぎり・長靴・カッパ・玉網・投網等調査・実習活動に必要な物品を取りそろえています。ご活用ください。

・最上川学推進センターの問い合わせ

Tel 0234-57-2177 fax 0234-57-2802 メール icesrc@nifty.com

山形県東田川郡庄内町清川字花崎1-1 (旧清川小学校) 担当:出川 他9名